※令和４年度以降入学生用

学校番号	210

令和８年度　地理歴史・公民科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	世界史探究「高校世界史」　（山川出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う科目である。
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることを目標とする。

2　学習の到達目標

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする能力を養う。
・世界の文化と伝統の特色についての認識を深める。
・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史的に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	1文明の成立と古代文明の特質2中央ユーラシアと東アジア3南アジア世界と東南アジア	・文明の誕生 ・古代オリエント文明とその周辺 ・南アジアの古代文明 ・中国の古代文明 ・南北アメリカ文明 ・中央ユーラシア ・秦・漢帝国 ・北方民族の活動と中国の分裂 ・東アジア文化圏の形成 ・仏教の成立と南アジアの統一国家 ・インド古典文化とヒンドゥー教の定着 ・東南アジア世界の形成と展開	a: 世界各地で多様な支配観念（王権）が形成されたことを理解している。古代オリエント文明とその周辺でおこなわれた神権政治の多様性を理解している。南アジアと古代オリエントの神権政治の共通点・相違点から、神権政治の多様性を理解している。中国の古代文明における神権政治の多様な展開とその現代的影響を理解している。アメリカ大陸の先住民文明とユーラシア大陸の神権政治の共通点・相違点から、古代世界の神権政治の多様性を理解している。中央ユーラシアの国家・社会における騎馬遊牧民とオアシス民の関係を理解している。秦・漢の支配制度のメリット・デメリットを理解している。新しい支配階級である貴族の成立と定着について理解している。多様な人々によって唐の繁栄がもたらされたことを理解している。南アジアの人々が解脱などの内面的な信仰だけでなく、政治的文化的な働きを求めていたことを理解している。インド分裂・混乱期に南アジア世界のまとまりがヒンドゥー教によって維持されたことを理解している。東南アジアと「海の道」の政治的文化的関係を理解している。 b: 貧富の差の拡大や仕事の分業化などの社会的関係を多面的・多角的に考察し、支配観念（王権）の形成について表現している。古代オリエント文明とその周辺でおこなわれた神権政治を多面的・多角的に考察し、改めて神権政治を定義する。南アジアと古代オリ	定期考査 ワークシート	定期考査 グループワーク 課題評価	

※令和４年度以降入学生用

	世界の展開		エントの王権と宗教との関係を比較して、他地域の神権政治の共通点・相違点を考察し、表現している。中国の古代文明における神権政治について、その推移や多様な展開の比較、現代的影響に着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。アメリカ大陸の先住民文明とユーラシア大陸の古代文明における王権と宗教の関係や経済・文化の特色を比較して、他地域の神権政治の共通点・相違点を考察し、神権政治の共通性や多様性を表現している。騎馬遊牧民とオアシス民の生活や生業、文化の特色やその相互の関連に着目して、中央ユーラシアの国家・社会について多面的・多角的に考察し、表現している。秦と漢の皇帝を中心とする社会秩序を比較して、人々の統治に対する効果を考察し、秦・漢の支配制度のメリット・デメリットについて多面的・多角的に表現している。社会秩序の混乱と統治の仕組みの相互の影響に着目し、新しい支配階級である貴族の成立と定着について多面的・多角的に考察し、表現している。トルコ系・イラン系の人々の活動、皇帝や貴族の政治的文化的な役割、女性の活躍などに着目し、隋・唐の繁栄の要因を多面的・多角的に考察し、表現している。南アジアの王や宗教家、一般の人々が仏教に求めた働きを比較して、宗教に求められた働きについて多面的・多角的に考察し、表現している。グプタ―朝の繁栄やその後の分裂期への推移に着目して、人々に支持されたヒンドゥー教の特色について多面的・多角的に考察し、表現している。海の道の東南アジア世界への政治的・文化的影響について着目し、東南アジアと「海の道」の			

※令和４年度以降入学生用

			関係について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：神権政治にもとづく専制的な政治が、人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合い、より良い社会形成のための政治のあり方を主体的に追究しようとしている。 第Ⅰ部のアプローチでつくった問いについて、古代文明の歴史的特質と関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 古代文明の学習を振り返り、「王権」などの学習の視点や方法について確認し、次の諸地域世界（中央ユーラシアと東アジア世界）について、学習の視点や方法などのつながりを見出している。 皇帝・貴族による律令国家が、人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合い、より良い社会形成のための政治のあり方を主体的に追究しようとしている。 第Ⅰ部のアプローチでつくった問いについて、諸地域の歴史的特質と関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 諸地域世界（中央ユーラシアと東アジア世界）の学習を振り返り、生業、身分、階級、王権、宗教、文化・思想などの学習の視点や方法について確認し、他の諸地域世界（南アジア・西アジアなど）について、学習の視点や方法などのつながりを見出している。 仏教やヒンドゥー教が、人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合い、より良い社会形成のための宗教のあり方を主体的に追究しようとしている。			授業態度 発問評価 課題評価

※令和４年度以降入学生用

			第Ⅰ部のアプローチでつくった問いについて、諸地域（南アジア世界・東南アジア世界）の歴史的特質と関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 南アジア世界・東南アジア世界の学習を振り返り、生業、身分、階級、王権、宗教、文化・思想などの学習の視点や方法について確認し、次の諸地域世界（西アジア・地中海周辺）について、学習の視点や方法などのつながりを見出している。			

※令和４年度以降入学生用

	4 西 ア ジ ア と 地 中 海 周 辺 の 国 家 形 成 5 イ ス ラ ー ム 教 の 成 立 と ヨ ー ロ ッ パ 世 界 の 形 成	・イラン諸国家の興亡とイラン文明 ・. ギリシア世界 ・ローマと地中海支配 ・キリスト教の成立と発展 ・アラブの大征服とカリフ政権の成立 ・ヨーロッパ世界の形成	a: イラン系諸国家の政治・経済・文化の共通点や相違点を理解している。ギリシア民主政と現代の政治制度との違いを理解している。元首政、専制君主政、東西分割と柔軟に対応したことや、共和政の伝統を尊重・維持してきたこと、帝国の強大さの表象など長期に繁栄した要因を理解している。皇帝や権力者が帝国の維持のためキリスト教を保護したことを理解している。イスラーム教が西アジア、北アフリカへの領域拡大と並行して伝播した経緯と、各地域の政治、文化の変容について理解している。キリト教を基盤とするヨーロッパ世界の形成の状況と多様性を理解している。 b: イラン系諸国家が行った戦争、交易、宗教などに着目し、その政治・経済・文化について多面的・多角的に考察し、表現している。参政権や制度に着目して、ギリシアと現代の政治制度を比較し、その違いを多面的・多角的に考察し、表現している。元首政、専制君主政、東西分割と柔軟に対応したことや、共和政の伝統を尊重・維持してきたこと、帝国の強大さの表象など支配方法を多面的・多角的に考察し、帝国が長期に繁栄した要因を判断する。経済的格差の拡大や社会の混乱、ゲルマン民族の大移動とその影響に着目して、皇帝や権力者が帝国の維持のためにキリスト教を保護しようとしたことを多面的・多角的に考察し、表現している。イスラーム教が西アジア・北アフリカを変容させていく状況を多面的・多角的に考察し、再定義している。キリスト教を軸とするヨーロッパ世界の特徴を多面的・多角的に考察し、改めて定義している。 c:イラン人やローマ人が形成	定期考査 ワークシート	定期考査 グループワーク 課題評価	授業態

※令和４年度以降入学生用

			した帝国が、人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合い、より良い社会形成のための政治のあり方を主体的に追究しようとしている。 第Ⅰ部のアプローチでつくった問いについて、諸地域（西アジアと地中海周辺）の歴史的特質と関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 諸地域（西アジアと地中海周辺）の学習を振り返り、生業、身分、階級、王権、宗教、文化・思想などの学習の視点や方法について確認し、他の諸地域世界（イスラーム世界やヨーロッパ世界など）について、学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。 あらたにイスラーム世界に組み込まれた地域の社会の変化が、人々の生活にどのような変化をもたらしたのか、また人々の生活を安定させ豊かにするものであったか話し合い、より良い社会形成のための政治のあり方を主体的に追究しようとしている。 ヨーロッパ世界形成の意味を、西ヨーロッパとビザンツ帝国を宗教や政治体制のあり方から比較、関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 イスラーム世界やキリスト教文化圏の研究を軸に、宗教の伝播のあり方や影響に関する学習の視点や方法について確認し、つながりを見出そうとしている。			度 発問評価 課題評価

※令和４年度以降入学生用

2	6イスラーム教の伝播と西アジアの動向 7ヨーロッパ世界の変容と展開 8東アジア世界の展開とモン	・イスラーム教の諸地域への伝播 ・西アジアの動向 ・西ヨーロッパの封建社会 ・東ヨーロッパ世界 ・西ヨーロッパ世界の変容 ・中世文化 ・宋とアジア諸地域の自立化 ・モンゴルの大帝国	a: イスラーム教が、アラブ＝ムスリムの遠征や交易などを通して各地に伝播し、社会や文化に影響を与えたことを理解している。イスラーム教の拡大が、各地域で文化の融合を進めたことを理解している。教皇権の伸長、西ヨーロッパの拡大運動と商業の発達、中世都市の誕生など、西ヨーロッパ中世の枠組みや体制が形成されたことを理解している。スラヴ人の国家形成の過程やビザンツ帝国の勢力衰退の状況について理解している。中世西ヨーロッパの特徴である、封建制、王権の弱体状況を理解するとともに、それらが崩れて近代国家形成へ向かう状況を理解している。古代ギリシア文化やイスラーム文化の流入と中世文化に与えた影響を定義し、中世西ヨーロッパの文化の多様性を理解している。唐から宋にかけて、支配者層が入れ替わり、周辺所民族の侵入が中国社会に与えた影響を多面的に理解している。モンゴル帝国の形成により東西交易のネットワークが形成され、大都を軸にアジアを中心とした「世界の一体化」が進められたことを理解している。 b: イスラーム教の伝播とその影響について考察し、その意味を表現している。イスラーム教の伝播が西アジア・北アフリカ・イベリア半島の社会に与えた影響を、具体的な例で多面的に考察し定義している。西ヨーロッパの封建社会の中で展開した、教会制度・拡大運動・商業の発達の状況を、具体的に考察し定義している。ロシアの状況、西、東スラヴ人の状況を、受容した宗教に関連付けながら多角的に考察している。中世西ヨーロッパの特徴がくずれて近代国家の形成が始まる状況を多	定期考査 ワークシート	定期考査 グループワーク 課題評価	

※令和４年度以降入学生用

	ゴル帝国		面的・多角的に考察し、再定義している。中世西ヨーロッパの文化のあり方を、ビザンツ帝国やイスラーム圏との関連を多面的・多角的に考察し、定義している。唐から宋にかけての支配者層の入れ替わりや、周辺所民族との関りが中国社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し、定義している。モンゴル帝国がユーラシア大陸から東西に広がり、「世界の」一体化が進められた状況を多面的・多角的に考察し、定義している。 c:イスラーム世界の拡大が、伝播した地域にどのような影響を与えたか、また、人々の生活に安定や豊かさをもたらすものであったのか話し合い、イスラーム教の拡大の持つ意味を主体的に追究しようとしている。 第Ⅱ部のアプローチでつくった問について、カイロの発展と都市の持つ意味や社会経済的位置づけの観点から比較、関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 イスラーム世界の拡大についての学習を振り返り、文化の伝播と影響に関する学習の視点や方法について確認し、次の諸地域世界（ヨーロッパ世界）について学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。 中世ヨーロッパ世界が、地域ごとにどのような特徴を持つのか、また、人々の生活に安定や豊かさをもたらすものであったのか話し合い、中世ヨーロッパ世界の特徴や意義を主体的に追究しようとしている。 第Ⅱ部のアプローチでつくった問について、ウィーンの時代ごとの状況を比較し、他の都市と関連付けて追究し、何がどこまで明ら			授業態度 発問評価 課題評価

※令和４年度以降入学生用

			かになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 中世ヨーロッパ世界の特徴について、地域ごとの異なる文化と現代への影響に関する学習の視点や方法について確認し、次の諸地域世界（東アジア世界の）について学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。 発展学習１：モンゴル帝国が，ユーラシア大陸の広域に勢力圏を広げた状況を考えるとともに，地域ごとにどのような特徴を持つのか，また，人々の生活に安定や豊かさをもたらすものであったのか話し合い，中世ヨーロッパ世界の特徴や意義を主体的に追究しようとしている。 唐から宋にかけての支配者層の入れ替わりや，モンゴル帝国の時代にかけての支配者層の展開について，中国社会に与えた影響を考察し，何がどこまで明らかになったか，何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 モンゴル世界の特徴，領域の拡大と交易網の広域化や「世界の」一体化への影響に関する学習の視点や方法について確認し，次の諸地域世界（大交易・大交流の時代）について学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。			

※令和４年度以降入学生用

	9 大交易・大交流の時代 10 アジアの諸帝国の繁栄 11 近世ヨーロッパ世界の動向	・アジア交易世界の興隆 ・ヨーロッパの海洋進出、アメリカ大陸の変容 ・オスマン帝国とサファヴィー朝 ・ムガル帝国の興隆 ・清代の中国と隣接諸地域 ・ルネサンス ・宗教改革 ・主権国家体制の成立 ・オランダ・イギリス・フランスの台頭 ・北欧・東欧の動向 ・科学革命と啓蒙思想	a: 明朝の朝貢貿易が展開される中、周辺諸国との関係や異文化の流入などが中国へもたらした変化の多様性について理解している。ポルトガルやスペインの海外進出の本格化が、「世界の一体化」の端緒となり、のちの本格的な世界の結びつきへとつながってゆくことを理解している。オスマン帝国の領域拡大の状況と影響を、理解している。ムガル帝国のヒンドゥー教徒に対する統治の在り方の経緯と変化について理解している。清朝の対漢民族に対する統治の、優遇と弾圧の両面性を理解している。ルネサンス運動の多様性と、後のヨーロッパ社会や現代に与えた影響を理解している。宗教改革の意義とカトリック改革やヨーロッパの宗教対立に与えた影響を理解している。主権国家体制の成立の意義と三十年戦争の与えた影響を理解している。オランダ・イギリス・フランスの国制の特徴の多様性を理解している。16～18 世紀にかけて、北欧・東欧でおこった興亡や歴史の多様性を理解している。科学革命と啓蒙思想について特色や多様性を理解している。 b: ヨーロッパがしきりに海外進出を進めた 16 世紀の東南アジア、東アジアの社会の特色や多様性を理解している。ポルトガルやスペインの海外進出の状況の違いを比較し、多面的・多角的に考察し、改めてポルトガル、スペインの海外進出を定義している。オスマン帝国の領域拡大と支配の実態について、多面的・多角的に考察し、検討している。ムガル帝国のヒンドゥー教徒への統治の時代による変化とその影響を、多面的・多角的に考察し、定義している。清朝の対漢民族統治の、優	定期考査 ワークシート	定期考査 グループワーク 課題評価	

※令和４年度以降入学生用

			遇と弾圧の両面性について、多面的・多角的に考察し、改めて定義している。ルネサンス運動を多面的・多角的に考察し、改めてルネサンス運動を定義している。ヨーロッパ各地でおこなわれた宗教改革とカトリック改革や宗教対立がヨーロッパ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し、宗教改革を定義している。主権国家体制と絶対王政についてイタリア戦争や三十年戦争などの戦争と関連付けながら多面的・多角的に考察し、ヨーロッパの主権国家体制を定義している。各国の海外進出とその結果与えた影響を多面的・多角的に考察し、ヨーロッパ諸国がそれぞれどのような国家体制を築いていったかを定義している。16～18 世紀の北欧・東欧でおこった興亡を多面的・多角的に考察し、啓蒙専制主義をはじめとする政治体制をどのように築いていったかを定義している。科学革命と啓蒙思想について多面的・多角的に考察し、科学革命と啓蒙思想について定義している。 c：モンゴル帝国の拡大が交易に与えた影響や、人々の生活に安定や豊かさをもたらすものであったのか話し合い、モンゴル帝国の領域の拡大の持つ意味を主体的に追究しようとしている。 明朝が形成した朝貢貿易と中国の交易のあり方を、ヨーロッパの交易のあり方と比較、関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容についての学習を振り返り、「世界の一体化」や文化の伝播と影響に関する学習の視点や方法について確認し、次の			授業態度 発問評価 課題評価

※令和４年度以降入学生用

			諸地域世界（オスマン帝国・サファヴィー朝・清朝）について学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。オスマン帝の支配領域の拡大が、ヨーロッパ社会や西アジア世界に与えた影響を話し合い、オスマン帝国の領域の拡大の持つ意味を主体的に追究しようとしている。 第Ⅱ部のアプローチでつくった問について、カイロの歴史的変遷と特質に関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、さらに何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 清朝の領域拡大と当地の方法について確認するとともに、ヨーロッパ文化の流入による社会の変容や変容しなかったことについての学習を振り返り、現在の中国文化や中国領域への影響に関する学習の視点や方法について確認し、次の諸地域世界（近世ヨーロッパ）について学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。 主権国家体制の形成と地球規模の交易が、いかに人々の生活を豊かにし安定させるものであったのかを話し合い、現代の社会において、よりよい社会や国際関係のあり方を主体的に探究している。 第 11 章近世ヨーロッパの動向で探究したことを踏まえ、現代社会への影響と関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 第 11 章近世ヨーロッパの動向で探究したことを踏まえ、近世ヨーロッパがもたらした「科学革命」「主権国家体制」などの学習の視点や方法について確認し、次の諸地域の結合・変容をもたらしたことについて、学習の視点や方法な			

※令和４年度以降入学生用

			どのつながりを見いだそうとしている。			

※令和４年度以降入学生用

3	12 産業革命と環大西洋革命 13 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 14 アジア諸地域の動揺	・産業革命 ・アメリカ合衆国の独立と発展 ・フランス革命とナポレオンの支配 ・中南米諸国の独立 ・ウィーン体制と政治・社会の変動 ・列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 ・アメリカ合衆国の発展 ・19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 ・西アジア地域の変容 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動	a: 産業革命について特色や多様性を理解している。アメリカ独立の特色や多様性について理解している。フランス革命とナポレオンの支配の特色や多様性について理解している。中南米諸国の独立と環大西洋革命の特色や多様性について理解している。ウィーン体制のもとで構築されたヨーロッパの国際秩序の特質と、その崩壊の過程を理解している。列強体制が弱まった 19 世紀後半の各国の状況と、ドイツ統一後に再構築された列強体制のもとでのヨーロッパの国際情勢と、国際運動やヨーロッパの拡大について理解している。領土の拡大にともなう、奴隷制をめぐる南北の対立を背景に勃発した南北戦争の経過と、19 世紀後半のアメリカ合衆国の発展について理解している。市民文化と国民文化、近代諸科学と近代哲学の発展、探検・調査の進展、大衆文化の誕生など、多岐にわたる 19 世紀の欧米文化を理解している。オスマン帝国の弱体化と東方問題、列強の経済的支配と帝国が取り組んだ近代化をめざす諸改革、ロシアとイギリスの勢力争いに巻き込まれたイラン、アフガニスタンの状況を理解している。当初、交易を求めたヨーロッパ諸国が、やがてインド・東南アジア諸地域を植民地化した過程とインド・東南アジア社会の変容、独立を維持したタイの状況について理解している。清朝が英仏の圧力を受けて不平等条約を締結し、ロシアと新たな国境を定めた経過、明治政府が進めた近代化、日本の対外進出がもたらした新しい東アジアの国際秩序を理解している。 b: 産業革命を多面的・多角的に考察し、改めて産業革命を定義し	定期考査 ワークシート	定期考査	

※令和４年度以降入学生用

			ている。アメリカの独立と発展について多面的・多角的に考察し、改めてアメリカの独立と発展について定義している。フランス革命とナポレオンの支配について多面的・多角的に考察し、改めてフランス革命と発展について定義している。中南米諸国の独立について多面的・多角的に考察し、改めて中南米諸国の独立と環大西洋革命について定義している。ウィーン体制の形成とその特質、ウィーン体制が 19 世紀のヨーロッパに及ぼした影響を多面的・多角的に考察し、その歴史的意義を表現している。クリミア戦争後のヨーロッパ各国の情勢や、ビスマルクが再構築した列強体制、国際運動やヨーロッパの拡大について多角的・多面的に考察し、ヨーロッパの国際情勢の変化について表現している。領土の拡大に伴う南北の対立を背景として勃発した南北戦争と、19 世紀後半のアメリカ合衆国の発展について多角的・多面的に考察し、表現している。市民文化と国民文化、近代諸科学と近代哲学の発展、探検・調査の進展、大衆文化の誕生について多面的・多角的に考察し、19 世紀の欧米文化の特色を表現している。列強の経済支配の進展と、オスマン帝国が取り組んだ諸改革、ロシアとイギリスの勢力争いが展開したイランとアフガニスタンの情勢について、多角的・多面的に考察し、表現している。ヨーロッパ諸国がインド、東南アジアの植民地化をどのように進め、インド・東南アジアがどのように変容したか、多角的・多面的に考察し、表現している。ヨーロッパ諸国の進出と反乱のなかで近代化にとりくんだ清、近代化とともに海外進出を進めた日本、日		グループワーク課題評価	

※令和４年度以降入学生用

			中両国が勢力を争った朝鮮について、多角的・多面的に考察し、表現している。 c:産業革命と環大西洋革命が、現在の民主主義社会を作り上げるのにどのような影響を与えたのかを話し合い、現代の社会においてよりよい民主主義社会や経済のあり方を主体的に探究している。 第 12 章産業革命と環大西洋革命で探究したことを踏まえ、現代社会への影響と関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 第 12 章産業革命と環大西洋革命で探究したことを踏まえ、「産業革命」「環大西洋革命」などの学習の視点や方法について確認し、次の欧米諸国の国民国家の形成ついて、学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。 欧米諸国が形成した国民国家は、欧米諸国の人々の暮らしを安定させ、豊かな社会を築いたかを話し合い、より良い社会を形成するために何が必要であるかを主体的に追求しようとしている。 第Ⅲ部のアプローチでつくった問いについて、19 世紀の欧米諸国の歴史的特質と関連づけて追求し、何を明らかにできたか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 19 世紀の国民国家の形成の学習を振り返り、「国民国家」などの学習の視点や方法ついて確認し、次の 14 章で学ぶ「アジア諸地域の動揺」について、学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。 19 世紀のヨーロッパ諸国の干渉や植民地政策がアジアの諸地域に及ぼした影響と、アジア諸地域			授業態度 発問評価 課題評価

※令和４年度以降入学生用

			の対応について話し合い、これからの世界がより良い社会を形成するために何が必要であるかを主体的に追求しようとしている。 第Ⅲ部のアプローチでつくった問いについて、19 世紀のヨーロッパ諸国のアジアへの進出の歴史的特質と関連づけて追求し、何を明らかにできたか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 19 世紀のヨーロッパのアジア進出についての学習を振り返り、「植民地化」などの学習の視点や方法ついて確認し、次の 15 章で学ぶ「帝国主義とアジアの民族運動」について、学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度